

災害安全②

家庭・地域と協働した防災安全マップづくりの事例

小学校 第4学年（総合的な学習の時間）

単元（題材）について

1 単元名 防災安全マップを作ろう

2 「必ず指導する基本的事項」との関連

区分	Ⅲ－４ 気象災害時の安全
目標	風水害、雪害の危険を理解し、安全な行動ができるようにする。
内容	・風水害時の危険を知り、安全な行動の仕方を確認すること。 ・特別警報等、気象災害に関する情報について知り、活用すること。

3 教材化の視点（身に付けさせたい資質・能力）

本校の学区域は多摩川に隣接しており、風水害時には敷地の一部が浸水する可能性がある。そのため、風水害発生時にいち早く情報を収集し、適切な判断と行動をとれるようにする必要がある。そこで、地域探検を通して自然災害が発生した際に倒れやすい物、浸水しやすい所や狭い道、丁字路等の危険な場所や道の消火栓、空き地、公園等の安全な場所について情報を収集し、防災安全マップを自ら作成することで、緊急時に落ち着いて避難行動をとることができる能力を育てたい。

指導計画（15時間扱い）

時間	○主な学習活動	◎安全教育の視点に立った留意点
1 2	○風水害などの自然災害の資料を紹介し、地域の様子を話し合い、課題を立てる。	◎自分の生活している身近な地域に着目させ、見通しをもたせる。
3	○地域探検に向けて観察の視点を考え、実行計画書にまとめる。	◎自然災害の影響について考え、観察の視点を明確にさせる。
4 5	○保護者の方も交えて地域探検を行い、危険な場所や安全な場所を見付ける。	◎保護者に地域探検の見守りを依頼し、協働する学びにつなげる。
6 7	○地域探検の記録を基にして、グループごとに防災安全マップを作る。	◎危険や安全な場所である理由等を書かせる。
8	○防災安全マップ作りで分かったことを整理し、中間発表に向けて原稿を作る。	◎発表の前に困ったことや分からないこと等を書かせる。
9	○地域の方々に防災安全マップを発表し、アドバイスをもらい、修正する。	◎発表の仕方（声の大きさや姿勢）のポイントを示す。
10 11	○地域の方のアドバイスを受けて地域探検を行う。	◎もっと調べたくなったことに注目して探検させる。
12 13	○防災安全マップを完成させ、発表の原稿を作り、グループで発表する。	◎安全に避難するために注目した視点を示しながら発表させる。
14	○地域の様子についてまとめ、安全な行動を取るために大切なことは何かを考える。	◎地域のどんな場所に注目し、何をすればよいのか考えさせる。
15	○防災安全マップ作りを通して分かったことや課題となったことを振り返る。	◎自ら安全な行動を取るための準備について考えさせる。

指導の工夫

導入の段階で、市のハザードマップや風水害による地域の被害等の資料を紹介し、防災意識の関心を高め、学習課題と学習計画を立てさせる。また、家庭・地域との協働を通して、防災安全マップづくりを行う。

指導事例（第9時／15時間）

1 ねらい

地域の方に向けて防災安全マップを発表し、地域の方からのアドバイスを参考に情報を修正しながらよりよい内容にしている。

2 指導の実際

	○主な学習活動	◎支援・留意点 ■評価
導入	○めあてを立てる。 地域のスペシャリストに自分たちの作った防災安全マップを発表し、アドバイスをもらってよりよい内容にしよう。	◎流れを示し見通しをもたせる。
展開	○3グループに分かれてマップにまとめたことを発表し、スペシャリスト（消防団員など）からアドバイスをもらい、内容を修正する。 ○困っていることや分からないことを質問し、アドバイスからよりよい内容にする。 ○本時で新たに学んだことについて発表する。	◎発表の仕方（声の大きさや姿勢）のポイントを示す。 ◎教員がタイマーを用いて、発表時間を意識させる。 ◎聞き取れなかったことについてグループで確認したり、質問の時間に再度質問したりする。 ◎まとめたメモや発表を通して出た不明点等を質問させる。
まとめ	○今日の成果や次に取り組みたいことについて振り返りを書く。	■地域の方に発表し、アドバイスを基に情報を修正し、よりよい内容にしている。

児童の学習状況

○ハザードマップや地域に関する資料を提示したり、社会科と関連を図ったりすることで、着眼点をもって地域探検やマップづくりに臨むことができた。

児童の変容

○地域のスペシャリストの話やアドバイスから、防災について、自分事として考えたり、情報を生活に生かそうという意識の高まりが見られた。